



エピック・ヘッジファンド・セレクション1 月次運用レポート

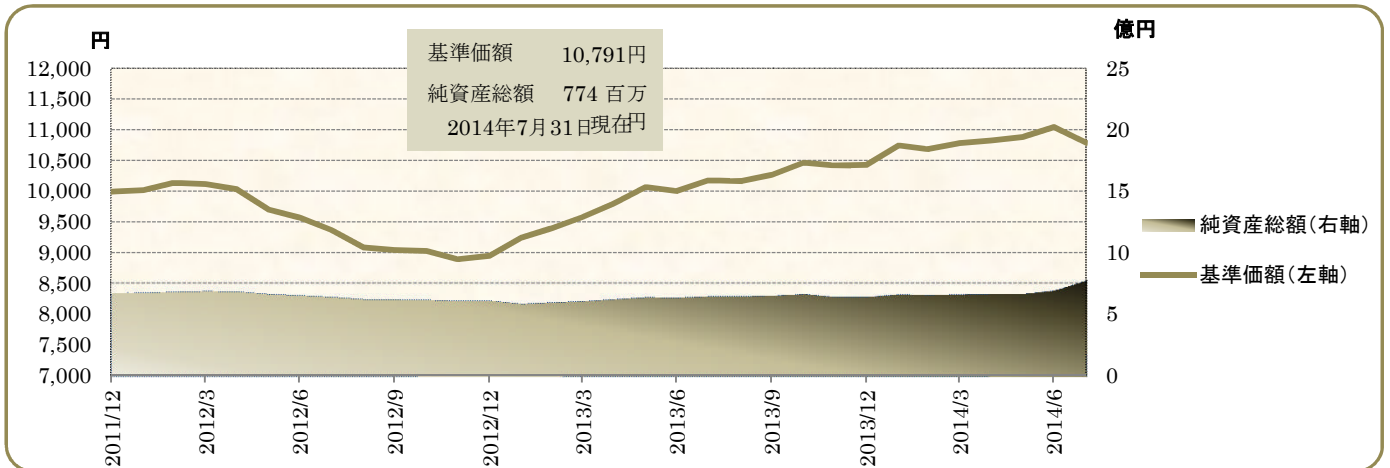
ケイマン諸島籍オープン・エンド契約型外国投資信託(追加型)

作成基準日

2014年7月31日

基準価額騰落率推移 (諸費用控除後, 税引前)

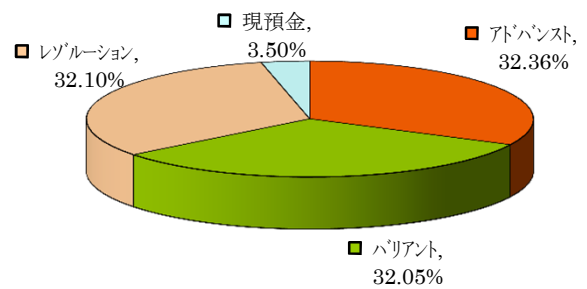
2014	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	年初来
騰落率	3.05%	-0.55%	0.89%	0.41%	0.55%	1.48%	-2.27%						3.52%
2013	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	年初来
騰落率	3.32%	1.57%	2.01%	2.27%	2.77%	-0.68%	1.80%	-0.18%	1.03%	1.91%	-0.43%	0.08%	16.51%
2012	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	年初来
騰落率	0.28%	1.22%	-0.21%	-0.83%	-3.36%	-1.32%	-2.12%	-3.02%	-0.45%	-0.17%	-1.51%	0.66%	-10.40%



運用実績

設定日:	2011年12月19日	
決算日:	毎年11月30日	
当初設定元本:	673 百万円	
基準日:	2014年7月31日	
基準価額:	10,791円	対前月比 -251円
純資産総額:	774 百万円	対前月比 +82.0 百万円
設定来高値:	10,822円	
設定来安値:	8,888円	
期間別	3ヶ月	-0.29%
基準価額騰落率	6ヶ月	0.46%
設定来	ファンド	7.91%
基準価額騰落率	TOPIX	78.20%
	日経平均	85.92%

投資対象ファンドへの資産配分 (2014年7月31日現在)



運用実績等に関するグラフ、数値等は過去のものであり、将来の運用成果等を示唆または保証するものではありません。

投資対象ファンドの基準価額騰落率推移 (諸費用控除後, 税引前)

2014	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月*	8月	9月	10月	11月	12月	年初来
ブラウイス	2.24%	-0.37%	0.41%	1.08%	0.88%	2.08%	-0.16%						6.29%
ウィズダム	0.94%	-0.06%	0.36%	0.81%	0.50%	1.06%	-0.30%						3.35%
レゾリューション	6.74%	-0.06%	2.94%	0.52%	1.36%	2.63%	-2.53%						11.92%
アドバンスト	3.59%	1.01%	0.60%	2.15%	1.23%	2.72%	-1.24%						10.41%
パリアント	7.64%	0.92%	3.59%	3.63%	1.89%	5.28%	-2.17%						22.38%
2013	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	年初来
ブラウイス	2.93%	1.07%	1.65%	3.95%	3.00%	-0.09%	1.11%	-0.32%	0.23%	0.95%	-1.04%	-0.06%	14.08%
ウィズダム	2.59%	2.09%	0.71%	2.09%	2.03%	1.19%	1.36%	0.44%	1.06%	0.73%	-0.15%	-0.01%	15.05%
レゾリューション	5.82%	2.76%	4.78%	2.00%	4.83%	-1.97%	4.08%	0.46%	2.94%	4.90%	1.06%	1.46%	38.27%
アドバンスト	7.06%	6.89%	2.79%	6.39%	5.21%	4.71%	4.15%	0.84%	1.20%	1.91%	-2.71%	1.61%	47.65%
パリアント	11.36%	2.57%	1.43%	14.44%	7.46%	1.93%	3.77%	0.67%	0.51%	3.33%	-5.39%	3.07%	53.66%

* 上記騰落率は投資対象ファンドの費用控除後の騰落率です。エピック・ヘッジファンド・セレクション1 (以下「HFS」という) にかかるコスト等が含まれないため、投資対象ファンドの騰落率を資産配分結果で加重平均した場合、HFSの基準価額騰落率とは一致いたしません。

* アドバンストとパリアントの騰落率は、2014年6月以前はJPY-Sクラス、2014年7月以降はJPY-Fクラスの騰落率です。年初来の収益率は月次収益率を時間加重したものです。



エピック・ヘッジファンド・セレクション1 月次運用レポート

相場動向

7月の株式相場は、日経平均で3.03%上昇の15,620.77円、TOPIXで2.13%上昇の1,289.42ptと、3カ月続伸となりました。

上旬は、海外株式市場や為替市場を見ながら一進一退の動きとなりました。市場予想を上回る米雇用統計発表を受けてNYダウが史上初めて17,000ドルを上回ると、日本市場でも幅広い上昇が見られました。その後米国株が弱含んだこと、機械受注で船舶・電力を除く民需が前月比過去最大のマイナス幅を記録したことなどから、主力株を中心に売られ、下落しました。

中旬は、ポルトガルの金融不安やウクライナ・中東の地政学リスクの高まりを受けて売られる局面もありましたが、下値では押し目買いが入る基調の強さが確認されたことや米国株が堅調に推移したことから、大きな下落には繋がりませんでした。

下旬は、海外株式市場が下落する中で、日本では好業績銘柄への物色が強まり、堅調な展開となりました。月末にかけて円安が進んだことも好感されました。

東証一部の一日平均売買代金は1.7兆円と4月以降4ヵ月連続で2兆円割れとなるなど、商いは低調でした。

需給面では、前月と同じく外国人・信託銀行が買い越し、個人が売り越しとなりました。自社株買いの増加で、事業法人も買い越しとなりました。

セクター別騰落率では、非鉄金属、ゴム製品、電気機器、空運業、化学が上位となり、証券業、その他金融業、保険業、水産・農林業、石油・石炭が下位となりました。

組入ファンドの運用状況と今後の市況見通し及び投資戦略

【レゾリューション】

<ファンド運用状況>

7月の株式市場は、大型株ではグロース、モメンタム、ROEなどが有効でしたが、小型株ではROEの有効性が低く、またPERのバリュエーションが有効であった一方で、局地的な高バリュエーション銘柄への1極集中が継続しました。

ポートフォリオは、情報、サービスなどのセクターをオーバーウェイトし、小売セクターを大きくアンダーウェイトとしました。また、小型株ロング、大型株ショートの状態を維持しました。

業績好調なテクノロジー銘柄で割安にあったJマテリアル(6055)のロングや業績鈍化の内需高バリュエーション銘柄のショートがプラス寄与し、ネット関連銘柄のショートがマイナス寄与となりました。

割安銘柄のロングで収益を確保できた一方で、高バリュエーション銘柄のショートによるマイナス影響が残る結果となりました。

<今後の市況見通し及び投資戦略>

外部環境のリスクを意識しながらも、リスク選好的な堅調な相場展開となっています。

一部バリュエーションの見直しも見られましたが、引き続き、極端に売買回転率の高い銘柄がマネーゲーム的に買われるような、ファンダメンタル面から乖離した値動きも残っています。

四半期決算の内容を受けた極端な値動きが、再度予想されますが、中期的な企業実体に応じたバリュエーション判断を行い、過剰反応に対する売買も行います。

引き続きバリュエーション銘柄のウェイトを増加させ、加えて定性的なプレミアム付与が可能なグロース銘柄の選別を進めます。

高バリュエーション銘柄のショートのを機会を伺い、一方、業績モメンタムの大きい割安株のロング銘柄の組入を行います。

成長力や競争力といった中期的な視点により割安銘柄と割高銘柄の選別を進めます。

【アドバンスド】

<ファンド運用状況>

7月の運用成績はJPY-Sクラスで-1.00%でした。株式市場が上昇する中、大型株のバリュエーションによる割安・割高が効きづらく、電機・素材・陸運セクター内のショートポジションの割高株が上昇したことによりマイナスの収益となりました。

個別銘柄レベルでは、ロングポジションではJFE(5411)、日立(6501)、ショートポジションではアイフル(8515)、SMS(2175)がプラス収益に寄与しました。

<今後の市況見通し及び投資戦略>

8月の株式市場は横ばいを予想します。国内企業の第一四半期決算は事前予想よりも好調でしたが、米国株式市場は今秋のQE終了を前に弱含みで推移することが予想されること、ウクライナや中東情勢など地政学リスクの高まりから上値の重い展開を予想します。

今後の投資戦略につきましては、クオンツモデルとトップアナリストによる投資評価の双方を活用し、銘柄選択により安定的な収益を目指します。

【バリエーション】

<ファンド運用状況>

7月の運用成績はJPY-Sクラスで-2.17%となりました。マイナスの要因として、①メガバンクのロングウェイトが高かったために、相場上昇についていけなかったこと、②相対的なパフォーマンスが良かった食品株、電鉄株のショートポジションでマイナスが大きかったこと、③一部の中小型株でバリュエーションを無視した動きがあったことなどがあげられます。

セクター別の損益は、小売、機械、非鉄金属セクターでプラスとなり、食品、医薬、銀行、陸運セクターでマイナスとなりました。

<今後の市況見通し及び投資戦略>

8月の株式市場は上値の重い展開を想定します。4-6月期決算は概ね事前の想定内であり、相場全体を押し上げるには力不足と思われる。また、外部環境も不透明感が強まっており、利益確定売りに押されやすい展開になると考えます。

今後の運用方針は、個別企業の業績・需給動向や国内外のマクロ動向を勘案し、相対的な割高・割安を適切に判断しながら、マーケットの上下に左右されない安定した収益の獲得を目指します。

投資信託の主な関係法人

管理会社:	インターナショナル・マネジメント・サービス・リミテッド
信託会社:	G.A.S. (ケイマン)リミテッド
管理事務代行会社:	エスエムティー・ファンド・サービス(アイルランド)リミテッド
保管銀行:	スミトモ・ミツイ・トラスト(ユークイ)リミテッド
投資運用会社:	エピック・パートナーズ・インベストメンツ株式会社 金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第432号 加入協会:一般社団法人 日本投資顧問業協会
代行協会員・日本における販売会社:	ヘッジファンド証券株式会社 http://hedgefund-sec.com/ 金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第2580号 加入協会:日本証券業協会

エピック・ヘッジファンド・セレクション1 月次運用レポート

金融商品取引法に基づく表示

商号等

エピック・パートナーズ・インベストメンツ株式会社

金融商品取引業者 関東財務局長（金商）第432号

当社が加入する協会等について

一般社団法人 日本投資顧問業協会 加入 第011-01395号

ご留意事項

- 当資料は投資信託の運用状況をお知らせするためにエピック・パートナーズ・インベストメンツが作成した資料であり、法令に基づく開示資料ではありません。
- 投資信託をお申し込みの際は、販売会社から投資信託説明書（交付目論見書）をお受け取りになり、その内容をよくお読みいただきご確認のうえ、お客様ご自身が投資に関してご判断ください。
- 当資料は特定の有価証券等の取得の申込み、投資顧問契約、投資一任契約の勧誘等を目的としたものではありません。
- 当資料内の運用実績等に関するグラフ、数値等は過去のものであり、将来の運用成果等を示唆または保証するものではありません。
- 当資料内のいかなる内容も、将来の市場環境の変動等を保証するものではありません。
- 当資料は各種の信頼できると考えられる情報源から作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。
- 投資信託は、株式等を投資対象としますので、組入株式の価格下落や、組入株式の発行会社の倒産や財務状況の悪化等の影響により、基準価額が下落することがあります。
したがって、投資家の皆様の投資元金は保証されているものではなく、基準価額の下落により、損失が生じることがあります。
- 運用管理費用、監査費用、その他の諸経費が、投資信託の保有期間に応じてかかりますが、事前にその上限を示すことができません。また、有価証券の売買等に係る手数料、租税等が発生しますが、運用の状況により変動しますので事前にその上限を示すことができません。

**当資料は、投資運用会社であるエピック・パートナーズ・インベストメンツが投資信託の運用状況をお知らせするために作成した資料であり、法令に基づく開示資料ではありません。
投資信託をお申し込みの際は、販売会社から投資信託説明書（交付目論見書）をお受け取りになり、その内容をよくお読みいただきご確認のうえ、お客様ご自身が投資に関してご判断ください。**